

くの関係があるようにみえる。

3、母乳を全然与えられなかったものは、知能の低いグループに多い。

4、長期間母乳だけで栄養されたものより、早めに乳または乳製品を足しはじめたものに優秀児が多い。

5、授乳時間をきめていたものに優秀児が多い。

6、乳児期に果汁、肝油、ビタミン剤などを与えられていたものの方が知能が高い者が多かった。

7、乳児期における体重増加不振、吐乳、断乳の困難性などは知能の低いグループに多い。

8、離乳開始の時期は、知能の低いグループではおかれている傾向がみられた。

9、幼児期においては、牛乳その他栄養的なものが、優秀グループに多く与えられていた。

以上のことから、乳幼児期に全般的な栄養上の注意を払われている場合に、知能発達に好影響を及ぼすことが推察される。

衣服と体質

(第一報)

長野県保育専門学院

竹村 計美

幼児の着衣についてはいろいろの要因が関係しました影響している

が、私は幼児の体質並びに幼児の保護者(母親)の体質が着衣に及ぼす影響について究明し、興味ある知見を得たので報告する。調査方法として、二四五名の一〜六才の保育園児を本冬一月三十一日、気温、零下六〇度C、室温七〇度C、において衣服の重量を検査し、体質傾向検査表を園児について、また母親に対しては小坂動態の体質評定用紙を使用して、それぞれその体質を観察記載した。

(1) 年令別、男女別 年少者に厚着が少なく、年長児に厚着薄着が多い。年長児は男子が薄着で、女子に厚着が多い傾向を認めた。

(2) 出生順位 第一子に比較的厚着が多く、一人っ子に厚着が多く、薄着は僅かである。

(3) 職業別 医師、日雇の子に厚着が認められなかった。

(4) 体型加 瘦型の子どもに薄着が僅かで、肥型の子どもの方に薄着が多く認められた。

(5) 異常体質 異常体質傾向の多いものは、ほとんど厚着であった。(異常体質傾向のない者は薄着が多く、また厚着も多い)

(6) 母親の体質 WM型(暑さまけ、外向性)の母親の子どもは薄着が非常に多く、SE型(寒さまけ、神経質)の母親の子どもに厚着が非常に多く、薄着が少ない。(5)(6)の結果は興味ある新知見である。将来、母親教育、着衣の適正の問題に対して、多くの示唆を与えていると思う。

子どもの体質、殊に母親の体質が子どもの着衣に対して相当重要な影響を与えている。弱い子どもには母親の過剰意識によって厚着をさせる傾向が多い。幼児の衣服の多くは保護者(殊に母親)により着用せしめられるため母親の体質即ち個人の考えで子ども立場にたたないで処理しているむきが多いと云える。